



保護林(郷土の森)の設定

▲花盛りのシャクナゲの巨木
(津志嶽^{つしだけ}シャクナゲ郷土の森)



▲天然杉の「大杉」(佐喜浜^{さきはま}躍動天然杉郷土の森)



▲段ノ谷山^{だんたにやま}天然杉「大杉」の下で(佐喜浜^{さきはま}躍動天然杉郷土の森)

四国森林管理局が管理経営する国有林野は約一八万ヘクタールで、四国の国土面積の二〇%、森林面積の二二%を占めています。森林帯区分でみると、暖温带林から亜寒帯林まで多岐にわたり、標高に従い、低地のシイ・カシ林、高地のモミ・ツガ林、ブナ林、シラベ林など多様な森林で構成されています。

このような国有林の特色を生かして、四国森林管理局では、保護林の一つである「郷土の森」を設定してきました。

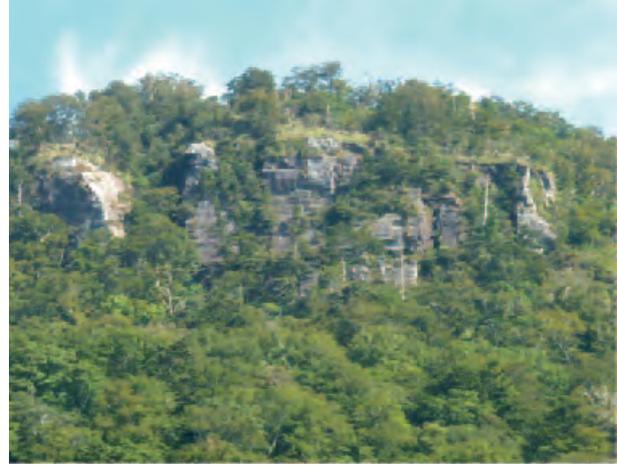
これまでの取組

「郷土の森」とは、地域の自然・文化のシンボルとしての森林の保存を目的に、市町村と保存協定を結び、適切な保全・管理を行う保護林です。これまで四国森林管理局では「郷土の森」として、六箇所、二四、一四ヘクタールを設定してきており、今回は、平成二二年度からの取組を紹介いたします。

○高知県・本山町 竜王山郷土の森

二二年度は、嶺北森林管理署管内、高知県本山町にある竜王山国有林(標高一四〇〇メートル)において、本山町と保存協定を締結しました。

この森は吉野川支流の汗見川^{あせみがわ}上流に位置し、樹齢二百年生のブナやトチノキ等の広葉樹林、シャクナゲやアケボノツツジ等の花木類が生育するとともに、クマタカなどの猛禽類等の希少生物も生息しています。この森の特徴の一つとして、地質的にも全国的に希少な「紅れん石」の巨岩が見られ、大露頭^{だいろうとう}(※)(高



紅れん石の大露頭(高知県・本山町) 竜王山郷土の森

さ五十m、水平幅二八六m)となつていところがあります。森林に地質も組み合わせた森林環境教育の場等として興味深いエリアとなっております。

本山町では今後の取組として、遊歩道の整備や天然記念物の指定に向けての取組など、また、自然資源を活かした情報発信や自然の生態系観察、森林学習等の場として活用すること、後世につながる地域づくりをしていくこととしており、今後の積極的な取組が期待されています。

※露頭：・鉱床・地層・岩石が地表に露出した所

○津志嶽シャクナゲ郷土の森

一三年度は、徳島森林管理



シャクナゲの巨木(幹廻り1m)
(津志嶽シャクナゲ郷土の森)

署管内、徳島県つるぎ町にある久敷国有林(山頂は津志嶽一四九四メートル)において、つるぎ町と国際森林年を記念した保存協定を締結しました。津志嶽は、矢筈山(一八四九メートル)を盟主として東西に連なる祖谷山溪の東端に位置し、ラクダのこぶのような特異な山容で知られています。また、古くから津志嶽神社や石鉄神社が祀られ、信仰の山としても知られており、更に、タヌキ伝承や姥捨て伝説も今に伝えられています。

郷土の森に設定した森は、広葉樹主体の天然林で、林床には、老木・古木のシャクナゲ群落を形成しており、このシャクナゲは高年齢(推定樹齢百年〜四百年)の巨木が多く全



郷土の森の案内看板前にて(津志嶽シャクナゲ郷土の森)

国的に希少なため、平成十二年に地元の旧一宇村(いちごせん)によって天然記念物に指定されています。つるぎ町内の森には巨樹・巨木が多く生育しており、これまで町は「巨樹大国」を全国的に標榜してきています。平成二二年度には「第三回巨木を語るつ全国フォーラムつるぎ大会」が開催され、シャクナゲの存在を紹介したところ大変な好評を得たところです。

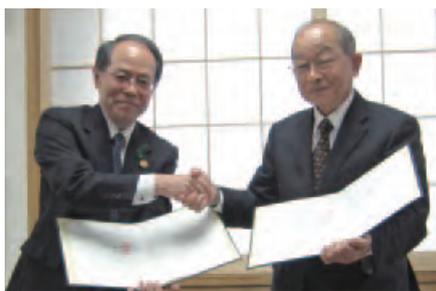
最近の取組

本年度は、一〇月三〇日に、安芸森林管理署管内、高知県室戸市佐喜浜町にある段ノ

谷山国有林を世界ジオパーク認定記念の森として、室戸市と「佐喜浜躍動天然杉郷土の森」を設定する保存協定を締結しました。

この森は、室戸市佐喜浜町の佐喜浜川上流域に位置し、野根山(二〇八三メートル)や、歴史的・文化的遺産を結び、自然の中を歩いてこれらに親しめる自然歩道である野根山街道など、数多くの自然や歴史的・文化的遺産が多く残っている地域です。

なかでも、段ノ谷山の登山道周辺は天然杉の巨木が三〇本以上も分布しており、幹周りが二メートルを越える天然杉などが間近で見られ、一般観光客向けの森林学習会や、地元小中学校の学習会の場とし



「佐喜浜躍動天然杉郷土の森」協定調印式
(佐喜浜躍動天然杉郷土の森)

て活用されています。また、昨年には室戸市全体が世界ジオパークとして認定され、このエリアは「大地と生態系と人のつながりが見られる場所」として指定されています。

この森は、観光客だけでなく、地元住民の方々からも、周辺の自然資源や文化・歴史を含め「郷土の宝」として親しまれています。

今後、室戸市は、既存林道、歩道等の維持管理、登山者用のトイレの整備等を行い、段ノ谷山周辺を案内するガイド、地元住民の方々に対して、この地の生態系・歴史等の専門知識を学ぶための場(人材育成の場)としての活用を予定しています。

最後に

今後、「郷土の森」がさらに地域の自然・文化のシンボルとして、地元住民や一般市民の方々の森林レクリエーション、森林環境教育の場等として利用され、また、地域振興への寄与となるよう、森林の適切な保全・管理に努めていきます。